

第2学年1組 社会科学学習指導案

第4時 2年1組教室 指導者 青山 当知

1 単元 「近畿地方 ～歴史の中で形作られてきた人々の暮らし～」

(1) 構想

①単元観

近畿地方は歴史とともに形作られてきた街並みが多く残っている。その中でも古代の中心として栄えてきた京都市には、世界文化遺産に登録された17の寺社等を始め、数多くの歴史的資源が点在している。京都市内には主に江戸期から明治期に建築された伝統的木造兼用住宅である京町屋が2万軒以上残っており、京都らしい風情ある街並みを形成している。この優れた景観を守るため、京都市では1930年の風致地区指定の制定など、国制度や市独自の制度を駆使し、全国の景観行政の先駆けとして様々な取組を行ってきた。2007年に策定された新景観政策は、京都の歴史や文化を象徴する景観を守ろうと、市街地では建物の高さやデザインなどを規制している。しかし、実施後1年余りが経過した時点では、京都市には多くの住民からの問い合わせが後を絶たない状態であった。現在は、京都市の実情や景観を守るための取り決めを市民と協力して検討している。しかし、外国人観光客の急増が宿泊施設の需要を呼び、京町家を取り壊し、宿泊施設が建つ光景も広がっている。それにより、都市部のマンションの価値が高まり、若年層が市内に住めず周辺自治体に流出しているなど、新たな問題が浮上している。また、人口減少が進む日本では、京都も例外ではなく2045年には現状の147万人から129万人に減少する見込みである。住民がいなくなるとは京都市を形成することができないことも課題として浮上している。このような状況にある京都市の新景観政策を中心に単元を構成することで、歴史的な景観や街並みを守るための取組を知り、現在の京都市が抱える課題に気づかせていきたい。こうした学習を通して、歴史ある京都市だからこその独自の取組から、歴史を守り受け継いでいく人々の理解と協力の大切さを学ばせたい。

② 生徒観

本学級は、男子17名、女子20名で構成されている。社会科への意欲は高く、授業には積極的に参加することができる。一問一答などの発問に対しては挙手・発言をすることはできるが、資料の読み取りや自分の考えを発表することに抵抗を感じている生徒が多く、一定数の生徒しか発言することができない。また、生徒は歴史の学習や修学旅行の経験から京都市への関心は低くない。しかし、建物の名前を知っていてもその歴史にまで興味や関心を抱く生徒は少ない。本単元を通して、京都市の新景観政策を多面的に捉えるために、複数の資料の読み取りを行う。そこから得た情報をもとにして、根拠を持って自分の意見を発表できる生徒の姿に期待したい。また、他者の意見を参考にして自分の意見を再構築したり、京都市の課題に切実感を持って考えることができたり、仲間と協力して課題を解決しようと意欲的に取り組むことができる生徒の姿に期待したい。

③ 指導観

単元の導入では、近畿地方の自然環境や産業をまとめていく中で、京都市に訪れる外国人観光客が多いことを資料から読み取らせる。そして、なぜ外国人観光客が多いのかということに疑問をもたせたい。修学旅行の経験から生徒は、京都・奈良に残る伝統的な文化や歴史的な街並み、寺社等に興味を持っているのではないかと予想すると考えられる。それが観光資源となっていることに気づかせたい。そこから、歴史的な景観や街並みがなぜ京都市には多く残っているかを考えさせることで、京都市には独自の取組があることに目を向けさせる。追究の段階では、京都市独自の景観政策について自作の資料を用いて具体的にどのような行われているかを読み取らせる。生徒の予想以上に厳しい取組が行われていることを知らせ、景観政策の是非について追究していく。10年以上経った現在では、新景観政策にはどのような問題点があることを調べさせ、

資料を参考にして生徒の考えを構築させていく。その中で、2014年には清水寺の産寧坂の雑貨店への行政代執行や、2017年の京都大学への立て看板（タテカン）への指摘など実際の事例を紹介し、住民たちの思いに触れさせたい。本時では、これまで追究してきた内容から景観政策の是非を問い、立場討論を行う。それぞれの意見を知ることで、京都市の歴史的な街並みや景観を守りたい思いや、その土地に住む人々の思いを知ることで、今後、京都市の人々がどのように行政の取組を理解し、行動すべきかを考えさせたい。本時の終末では、歴史的な街並みや景観を守るためには、その土地の歴史を知り愛着をもち、行政への取組やその意義を知った上で協力していくことが市町を作る住民にとって欠かせない考えであることを学ばせたい。

(2) 目 標

- ・京都市の新景観政策に興味をもち、課題解決に向け意欲的に追究しようとする。(関心・意欲)
- ・京都市の新景観政策について、条例が定められた背景や、条例による京都市の現状を知り、課題を捉えることができる。また、京都市の取組の是非を考え、その地域に住む人々の協力なしでは行政は成り立たないことに気づくことができる。(思考・判断・表現)
- ・京都市の新景観政策について、資料集や自作資料から自分の意見の根拠となる資料を的確に読み取ることができる。(技能)
- ・京都市の新景観政策を通して、京都市にある様々な歴史的建築物の重要性を理解し、観光資源として京都市の経済を支えていることを理解することができる。(知識・理解)

(3) 指導計画

〈全8時間〉

学習課題	学習内容	時数
1. 近畿地方の自然環境をまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の自然環境の特色を、北部、中央低地、南部の3つの地域に分けて理解する。 ・自然災害と自然災害への備えについて関心をもつ。 	1
2. 近畿地方の各地域ではどのような産業が行われているのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市やそこでの産業について大まかに捉え、歴史的な背景とともに理解する。 ・大阪大都市圏あり、神戸や京都、奈良など、人や物の移動で強いつながりをもつ。 ・人口や産業の違いを理解する。 	1
3. 近畿地方の古都には、どのような景観が見られるのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・京都・奈良には伝統的な文化や歴史的な街並みが残っていることを捉える。 ・歴史的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という視点から多面的に捉える。 ・京都市を訪れる外国人観光客数の変化や京都市への観光客数の変化の資料を見て、なぜ外国人観光客が増えるのかを考える。 	1
【単元の学習課題】 京都市の景観を守る取り組みに賛成？反対？		
4. 京都市の魅力の謎を探ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客が多い理由を考えさせる。 ・京都市には、国宝・重要文化財の指定件数が多いことが、観光客の増加の要因につながっていることに気づかせる。 ・「新景観政策」のような、景観を守るための条例も作られていることを知る。 	1

5. どうやって景観を守っているのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市で定められた条例について知る。 ・なぜ定められたかを考えることで、京都市の景観が守られていることや、条例の価値に気づかせる。 新景観政策…H19.9.1に制定される。5つの柱（建物の高さ、デザイン、屋外広告物、歴史的な街並み、眺望景観や借景）をもとに、景観についての取り決めがある。 ・新景観条例を通して、京都市のメリットやデメリットは何かを考え、賛成か反対の是非を問う。 	1
6. 新景観条例についての現状と課題を知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・新景観条例が策定されてから今年で10年。これまでの取り組みから、現在抱える課題を知り、今後どのようにしていくか考える京都市について触れる。 ・新景観条例による京都市への影響を経済などの側面からも捉えることができるように、自作資料で読み取りを行う。 	2
7. 新景観政策による2つの事例を知って、みんなはどう思う？	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年に清水寺につながる産寧坂の雑貨店に行われた行政代執行の事例や、平成29年に京都大学の敷地を囲む看板や敷地内の看板への指導についての事例を紹介する。 ・2つの事例を参考にして、再び意見を構築する。 	1
8. 京都市の景観を守る取り組みに賛成？反対？	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市新景観条例に対して、賛成か反対かの立場に分かれて立場討論を行う。今までの学習した内容を中心に根拠をもって話し合いを行う。 ・京都市のチリ人店主の方の話や京都市の行政の形の話を紹介して、市民の思いに触れることで京都市の取組に切実感をもたせたり、話し合いの内容を深めたりする。 ・終着点として、新景観政策を通して、京都市の歴史ある街並みを形成するために、行政への理解と市民の協力が不可欠であり、歴史と人との「和」が大切であることに気づかせたい。 	1 (本時)

2 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ①京都市の新景観政策の是非について立場討論の場を設けることで、京都市にとってより良い景観政策を自分ごととして考えることができる。(思考・判断)
- ②京都市の古都の歴史に理解し、京都市新景観政策の課題と改善すべき点を、話し合いを通して判断することができる。(関心)

(2) 「わかる・できる」ための手立て

- ・京都市の取組に切実感を持たせるために、行政代執行を受けた店主の方や、京都市に住んでいる方々の思いに触れさせる。

(3) 準備

- ① 教師…教科書、資料集、自作資料、プリント
- ② 生徒…教科書、資料集、自作資料、プリント

(4) 展 開

段階	生徒の活動	教師の活動
導入 (5)	1 本時までの追究内容を振り返る。 2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">京都市の景観を守る取組に賛成？反対？</div>	○京都市の新景観条例についての学習内容や追究した内容、それによる問題点や課題があったことを確認する。 ○本時の学習課題を板書する。
展開 (35)	3 京都市の景観を守る取組の是非を議論する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>賛成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客の目的は歴史的建造物や景観を見に来るから。 ・日本の歴史として今後も守り続けていくために必要だから。 ・観光客が来ることによって、京都市は1兆円もの経済効果が出ているから。 ・京都市の雇用が13万人以上にも膨らんでいる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準が厳しく、自分の思ったような家を建てるなど、生活がしにくい。 ・外国人観光客が増えたことによるマナーの悪さも目立つ。 ・景観を守ることも大切だが、その土地の人々の思いを守るのも大切だと思う。 ・住民の意見を参考にして、条例を柔軟に変更できるようにしてほしい。 </div>	○「賛成」、「反対」の立場に分けて板書を構成する。 ・「外国人観光客」、「雇用」、「経済」など話し合いを焦点化させるための項目を出して板書をする。 ○発言に対して、どの資料を用いて意見を構築したか、根拠を明確にさせる。 ・感情論にならないように配慮する。 ○発言が滞ってしまった場合は、意図的使命感を行う。 ○建築物の歴史的な価値から条例を守りたい考えと、歴史的な価値を知りながらも土地に愛着のある住民の思いを互いに共存させたい考えがある生徒の意見を取り上げる。 ○ <u>京都市の新景観政策について仕組みを理解した上で、住民たちの思いを知ること</u> で、 <u>現状を変えてより良くするために考える必要があること</u> に気づかせる。
整理 (10)	4 本時の話し合いを通して考えた、自分の意見を書く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある街並みを守るためには、京都市と住民が協力して、条例の内容が決めるといい。 ・京都市の考えを理解して、市民も協力して取り組むことが大切である。 </div>	○歴史ある街並みを守り受け継ぐために、京都市と市民の協力と理解が必要といった内容を書いている生徒を取り上げる。 ○本時の感想を書くように指示する。

(5) 評 価

- ① 他者の意見を参考にして、京都市の新景観政策について切実感をもって考えることができたか。
(3の活動、発言から)
- ② 立場討論を通して、京都市が抱える現状を把握し、課題を克服し改善していこうと考えることができるか。
(4の活動、発言から)

(6) 板書計画

